

地域におけるこども健全育成

南 側 晃 一

1. はじめに

大阪府堺市西区の鳳南校区には約1,200人の小学生が居住している。しかし、地域のこども育成活動である「こども会」の会員は200人程度にまで減少している。本来、こども会の活動は「地域でこどもを育成する」ことが目的であるが、現状では一部のこどものための活動になっている。このままでは、こども会活動の本来の目的を達成することはできない。そこで、「地域のこども達を地域で育成する」という基本的目的を達成するためには、こども達が地域の中で自由に活動できる場を提供することが大切である。そして、その自由な活動の場の中で、こども達の縦の繋がり、中学生などのお兄ちゃんお姉ちゃんとの繋がり、地域の方々とのつながり、を形成していくことが重要だと考えている。本報告は、鳳南校区における「こども健全育成」の取り組みについて述べるものである。

2. 地域におけるこども健全育成のあり方

地域においてこどもたちをお世話するには、「こどもの健全育成のあり方」について育成者である大人としての共通認識が必要である。児童健全育成推進財団が発行する「児童館・放課後児童クラブテキストシリーズ(1)健全育成論」では「こども健全育成のあり方」について次のように記述されている。

人間には生まれつき備わっている本能的・生理的欲求がある。「人から好かれない」「仲間に認められない」という気持ちは、こどもだけでなく大人になっても持ち続ける欲求である。いつもはあまりやりたくないお手伝いや嫌な勉強であっても、誰かにほめられたり認められたりして欲求が満たされると、「おもしろい」「楽しい」「うれしい」「やりたい」という快適な心理状態となり、知らず知らずのうちに健全な発達へと導かれていく。すべての人は、まわりの人からほめられたり認められたりしたいと思っている。こどもはなおさらであり、危険なことや悪いことでない限り、こどもの自主性を認め、気持ちを受け止め、意図的に良いところを見つけて、できるだけほめてあげることが重要である。人から認められた喜びや満足感によって安定した心理状態となり、相手を受け入れようとする気持ちになる。どのような環境にあるこどもであっても、必ずいつかは回避できないような「苦勞」「失敗」「挫折」に直面することがある。問題に直面してもそのストレスにもちこたえる欲求不満耐性や障壁を乗り越えようとする心の弾力性を育てていくことが、こどもの健全育成においてとても重要である。

このように「こども健全育成」のあり方としては、「こどもの自主性を認め、気持ちを受け止め、共に喜ぶ」ことを基本として、困難に負けない心を育むように取り組んでいくことが大切である。では「心を育むとは何か」について考えてみる。

エイデル研究所発行の「乳幼児期から育む自尊感情 近藤卓著」では、人が社会の中で生きていく上で「自尊感情」がとても重要であり、「自尊感情」には「社会的自尊感情」と「基本的自尊感情」があることについて次のように述べている。

1980年代のアメリカでは、こどもをほめて認めて成功体験を積み重ねることで自尊感情を高めようとする教育が行われた。しかしその結果は期待したものとは違い、自己中心的でわがままなこどもが増加した。ほめて認めるだけではこどもの心は育たない。自尊感情には「社会的自尊感情」と「基本的自尊感情」がある。「社会的自尊感情」とは、他

者からほめられたり、認められたり、成功体験を積んだりすることによって高まる感情で、他者との比較に基づく相対的な優劣による感情である。人が社会のなかで向上し、挑戦するには、社会的自尊感情は欠かせない大切な感情であるが、人が生きる上ではさらに大切な感情の領域があり、それが「基本的自尊感情」である。「基本的自尊感情」は、成功や優越とは無関係に、自分の良いところも悪いところもあるがままに受け入れ、自分を大切な存在として尊重するものである。基本的自尊感情を育むには、日常の中のにげない共有体験を地道に重ねることが必要である。そのことにより「自分はこの世に出てきてよかった」「自分は愛されている」という安心が生まれ、それが心の基盤を形成する。

このように「自尊感情」には「社会的自尊感情」と「基本的自尊感情」があり、ほめて認めて成功体験を積むことで「社会的自尊感情」は高まるが、失敗や挫折により「社会的自尊感情」はしぼんでしまう。困難に負けない心を育てるには「基本的自尊感情」を育むことが大切であり、そのためには日常の活動の中で「共有体験」を積み重ねていくことが重要である。例えば、道端に咲くタンポポを見て「かわいいね」と一緒に微笑み合うこと、遊んで「楽しいね」と笑い合えることなど、体験と感情の共有を通して、こどもは「かわいい」「楽しい」と感じる自分が間違っていないことや、そう感じる自分を受け止めてもらえていることを実感し、「基本的自尊感情」が育まれていく。

3. 地域における取り組み事例

3.1 校区全体としての取り組み事例

鳳南校区では、地域に居住する皆様が「生活しやすい地域」を目指して様々な活動を行っている。しかし、ひとことで「住みやすい地域」と言っても、「高齢者の方々が住みやすい地域のあり方」と「子育て世代の方々が住みやすい地域のあり方」とは異なる。そこで今回、鳳南校区まちづくり事業として、子育て世代の方々を対象として「住みやすい地域とはなにか」を一緒に考える場を設けることにした。地域に居住する高齢者の方々と子育て世代の方々と世代間交流を通じて、地域としての「新たな支え合い」「住みやすいまちづくり」を考える場を提供することにした。そこで、平成30年2月4日（日）、「鳳南校区フェスティバル」として地域交流イベントを開催、当日は487人（大人225人、こども262人）の参加があった。

当日は午前10時より体育館にて主催者の挨拶および行事内容の説明を行った後、元寝屋川市立和光小学校校長の丸山涼子先生による特別講演会として「みんなで支える学校・みんなで育てる子ども」と題して講演を開催した。その後、各種の交流イベントを実施、昼食は炊出し訓練を兼ねて「うどん」を提供した。



会場風景



主催者挨拶

イベントの内容は、世代間交流を目的とした伝承・交流コーナーとして「あやとり、手芸、折り紙、風船アート、お絵かき、紙飛行機、コマ回し、けん玉、おはじ

き、かるた、凧揚げ、割りばし鉄砲」などを実施した。



凧あげコーナー



紙飛行機コーナー



卓球コーナー



将棋・オセロコーナー



けん玉コーナー



コマ回しコーナー



割りばし鉄砲コーナー



風船アートコーナー



カルタコーナー



幼児コーナー

3.2 こども会の取り組み事例

「地域のこども達を地域で育成する」という基本的な目的を達成するために、こども達が地域の中で自由に活動できる場として「南っこクラブ」を開設した。活動内容は、「ドッジボールクラブ」「卓球クラブ」「将棋クラブ」「オセロクラブ」の4種類とし、第1回南っこクラブを2017年10月15日(日)に開催、あいにくの雨天であったが100名を超えるこどもたちが参加した。また多くの保護者の方々も見学参加され、お手伝いもして頂いた。なお、当日参加したこどもたちのほとんどは、こども会に加入していないこどもたちであり「より多くのこどもたちをお世話する」という目標に向けての第一歩となった。



ドッジボールクラブ



卓球クラブ



将棋クラブ



オセロクラブ

4. おわりに

鳳南校区連合こども会では、地域のこどもたちの健全育成を目指し、こどもたちが少しでも幸せに地域の中で活動できるような取り組みを行っている。今後は、この南っこクラブを通じて中学生のお兄ちゃんお姉ちゃんや地域団体などの高齢者の方々との交流を図り、地域全体としての「こども健全育成活動」に展開していきたいと考えている。(以上)